

アスレティックリハビリテーションⅡ

科目ナンバリング SPS-311
選択 2単位

山本 明秀

1. 授業の概要(ねらい)

本授業では、1・2年時に学んできた運動器の機能解剖やスポーツ外傷・障害の基礎知識についての復習を行いながら、アスレティックリハビリテーションの基礎を確認し、スポーツ外傷・障害別のアスレティックリハビリテーションについて学ぶ。

また、競技特性の理解と、競技特性に応じたアスレティックリハビリテーションについても学ぶ。

2. 授業の到達目標

- ・スポーツ外傷・障害の病態を考慮したリハビリテーションを理解し、説明ができる
- ・競技特性を考慮したリハビリテーションを理解し、説明ができる
- ・アスレティックリハビリテーションを実践指導できる

3. 成績評価の方法および基準

- ・期末試験(100点満点)により評価するが、欠席1回につき4点の減点とする。
- ・出席が授業実施回数の2/3に満たない場合は期末試験の受験資格は認められない。
- ・期末試験の得点から欠席点を減点し、60点以上を合格とする。

4. 教科書・参考文献

参考文献

『日本体育協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト②運動器の解剖と機能』
『日本体育協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト③スポーツ外傷・障害の基礎知識』
『日本体育協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト⑤検査・測定と評価』
『日本体育協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト⑦アスレティックリハビリテーション』
ケネス・L・ナイト 『クライオセラピー』（ブックハウスHD）
ジョセフ・シブリアーノ 『写真で学ぶ整形外科テスト法』（医道の日本社）
臨床スポーツ医学編集委員会 『スポーツ外傷・障害の理学診断理学療法ガイド』（文光堂）
中村利孝・松野丈夫 監修 『標準整形外科学 第13版』（医学書院）

5. 準備学修の内容

- ・講義終了時に次回の予告を行うので、今までに学んだ機能解剖の復習をして、理解しておくこと
- ・授業で説明された事項がスポーツの現場で実際にどのように実践されているか確認しておくこと

6. その他履修上の注意事項

- ・人の身体を扱うという強い自覚を持ち、講義に臨むこと
- ・スポーツの現場などでリハビリテーションの実際を見学する機会を、積極的に作って欲しい
- ・ペアで行う実技も授業内で実施するが、指定された服装を準備して臨むこと
- ・本科目はアスレティックトレーナー志願者のみならず、トレーニング指導者や体育教員を目指す学生も積極的に参加して欲しい
- ・本講義を受講するにあたって以下の科目を履修していることが望ましい
「アスレティックリハビリテーション概論」「アスレティックリハビリテーションⅠ」「臨床スポーツ医学(外科系)Ⅰ・Ⅱ」
「スポーツ解剖学概論」「スポーツ解剖学Ⅰ」

7. 授業内容

- 【第1回】 オリエンテーション
- 【第2回】 肩関節の外傷・障害と評価方法
- 【第3回】 肩関節前方脱臼のアスレティックリハビリテーション
- 【第4回】 投球肩障害のアスレティックリハビリテーション
- 【第5回】 肘関節の外傷・障害と評価方法
- 【第6回】 外傷性肘関節内側側副靭帯損傷のアスレティックリハビリテーション
- 【第7回】 上腕骨内・外側上顆炎のアスレティックリハビリテーション
- 【第8回】 手関節の外傷・障害と評価方法
- 【第9回】 手関節捻挫のアスレティックリハビリテーション
- 【第10回】 頸部の外傷・障害と評価方法
- 【第11回】 頸椎捻挫のアスレティックリハビリテーション
- 【第12回】 腰部の外傷・障害と評価方法
- 【第13回】 腰部疾患のアスレティックリハビリテーション
- 【第14回】 競技種目特性に基づいたアスレティックリハビリテーション
- 【第15回】 まとめと試験